

# 介護ロボットを どう活用していくか

～見守り支援システム「眠りSCAN」の導入～

社会福祉法人梓友会 介護老人福祉施設みくらの里  
ユニットリーダー 柏木大行

## みくらの里

### 【概要】

静岡県下田市吉佐美1086  
開設： 2005（平成17）年2月25日  
建物： RC3階建て  
定員： 特養80名、短期20名、通所30名  
介護度： 3.94（H30.6.30現在）



### 【主な取り組み】

- \* 2006（平成18）年3月 ISO9001を取得
- \* 2006（平成18）年11月 認知症ケアとして、くもん学習療法を開始
- \* 2013（平成25）年4月 県内2番目のエッシーグ-実地研修施設として認定
- \* 2014（平成26）年 入浴リフト、移乗リフト導入
- \* 2017（平成29）年1月 CYBERDYNE「HAL」導入

## 「眠りSCAN」を導入したきっかけ

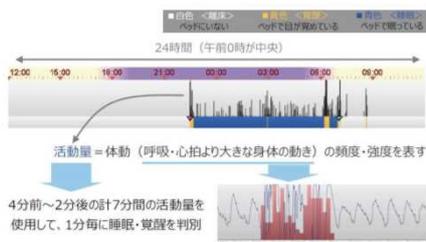
- ▶ 入居者の睡眠状況に合わせた排泄支援の提供
- ▶ 転倒・転落事故の防止
- ▶ 看取り介護となった入居者の状態把握

- ➡ **・ 利用者のケアプランの改善**
- ・ 職員の業務負担軽減**

## 眠りSCANとは



## 睡眠と覚醒の判定



## リアルタイムモニター機能



### リアルタイムモニター ～見守り・入居者の現在状態の見える化～

入居者の今の状況を端末上で見える化  
入居者の睡眠、覚醒、離床、起き上がり、呼吸数がリアルタイムで把握できる

### リアルタイムモニター～呼吸・心拍日誌～

呼吸数、心拍数の変化を確認することでより早く状態変化に気付くことができる

### 取組の内容

- ▶ 導入時期：平成30年3月～
- ▶ 対象者：6名  
(転倒転落ハイリスク者5名、  
看取り介護者1名)

### 事例 1

- ▶ A様：96歳・男性・要介護度3・認知症高齢者の日常生活自立度判定Ⅳ
- ▶ 主な疾患：認知症、心房細動、左室肥大症、前立腺肥大症
- ▶ 入居日：平成30年3月
- ▶ 導入日：入居日より開始
- ▶ ADL  
食事：自力摂取  
排泄：一部介助（日中トイレ誘導、夜間はポータブルトイレ使用）  
移動：一部介助（車椅子を自乗できるが、ブレーキのかけ忘れがある）  
移乗：一部介助（立位困難がある）  
日中の様子：トイレの訴えが多く、食事時以外でも食席でじっとしていることが多く、突然立ち上がることもある  
夜間の様子：1時間に2～3回起き上がりがある為、その都度排泄支援を行う。

**A様の課題**  
覚醒から起き上がりまでの動作が速く、従来のセンサーでは対応が間に合わず転倒転落発生リスクが高い

A様 入所直後の睡眠状況

入床後も眠りが浅く覚醒している時間が多い事が見える化

睡眠効率・中途覚醒・離床回数なども見える化

A様 ケアプラン見直し後の睡眠状況

以前より睡眠時間が増えている

- 睡眠効率 49%⇒62%へ↑
- 中途覚醒 273.5分⇒205.8分へ↓

## 分析結果と評価

日中の活動量が乏しく夜間の中途覚醒が多い事が判明  
ケアカンファレンスを実施し日中の活動内容を見直した



- ・夜間の中途覚醒時間が減少し睡眠効率が向上した
- ・離床を早期に察知でき転倒、転落防止につながった

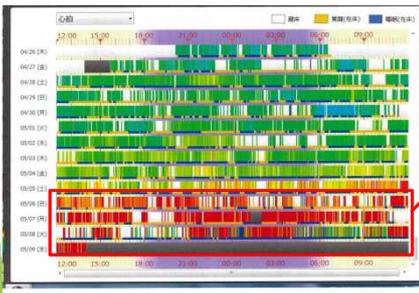
## 事例 2

- ▶ B様：93歳・女性・要介護度5・認知症高齢者の日常生活自立度判定Ⅲa
- ▶ 主な疾患：799A14型認知症、レビー小体型認知症
- ▶ ※H30年4月より看取り介護開始
- ▶ 入居日：平成24年10月
- ▶ 導入日：平成30年4月27日より開始
- ▶ ADL
- ▶ 食事：全介助（看取りの為水分摂取が主であった）
- ▶ 排泄：全介助（オムツ交換）
- ▶ 移動：全介助（リクライニング型車椅子使用し入浴時のみ離床）
- ▶ 様子：看取りでバイタルサインが不安定な状態であった為、終日ベッド上での生活。  
四肢の体動はあるが会話は困難な状態が続いた。

### B様の課題

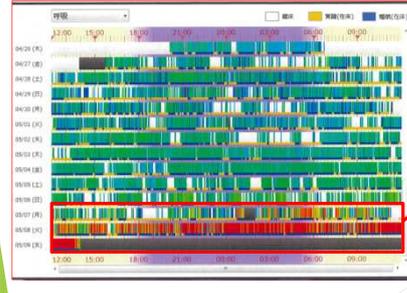
**個室の為、特に夜間帯の状態変化への迅速な  
対応が難しい**

## B様 心拍のデータ



亡くなる3日前より心拍数の変化が著しいことが明確

## B様 呼吸状態のデータ



亡くなる2日前より呼吸状態の変化が著しいことが明確

## 分析結果と評価

呼吸数・心拍数の見える化により状態が  
より把握できた



- ・介護職員の心配による頻回な訪室を減らすことができる
- ・最期の時が近づいていることがデータより読み取れ、ご家族の心の準備と、急変に対する職員の不安の軽減が図れた

## 今後の課題

1. 多くの利用者の睡眠状態を見える化し、睡眠における問題点を把握する。  
それにより、各利用者のケアプランの改善や職員の業務負担軽減につなげる。
2. 居室での「睡眠・覚醒・起き上がり・離床」がわかる為、入居者に合わせた介護・見守りが行えるようにする。
3. 看取り介護の方は呼吸数・心拍数が設定ができるので、状態把握に活用していく。

作成協力：パラマウントベッド株式会社

ご清聴ありがとうございました。